教仲女房
形気
四編
上巻

山東庵作

豊国画

戊申新春

錦穆堂寿

へ13
3703
4

京山作
豊國画
申之春
房形
彙
四編上下
女教草

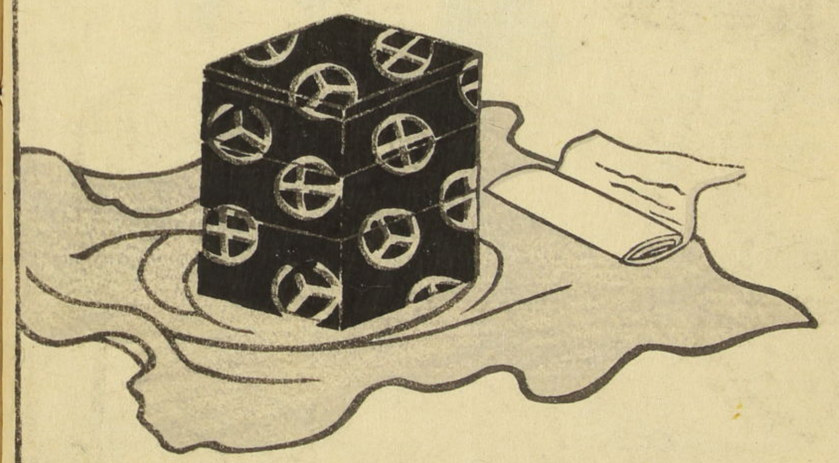
へ13
3703
4

女房形氣
四編下冊

京山作

豐國畫

山田彦板



○女房形氣四編上冊

おなじく人の女房として好ましくも和漢古今の通例

ここに秋沢ども日本の君子国なるを日本紀に草書記るとぞ

とある神代のそのかたちも神のこころとやらんとらあさのうちつ夷の国なるこころしみ小さ悍妬あり漢の高祖の本妻呂后ゞ膨大男子一人あり妾戚夫人も男子一人あり高祖戚夫人ゞ内たるをあのしてあとゞぞ立んと妬ける事をゞ

弘化四年丁未夏五月稿本
仝年晩秋上梓發販

高祖死れば本妻の呂后ひとり子をたて天子とまを是を惠帝と云ふ呂后夫人戚夫人を手足をもぎ眼をくり抜耳をそぎ薬をのまして瘖と厠の中へ入れ死せしめあさて死も中ごろ是を人豚と名づけるハ酷虐の本家と云べし左の出店なるハ後漢の袁紹が本妻をもつて病死しかばこれをもえさせる妻五人をとり此まゝゆくてまきば地下へもとゝふあらんとて五人がこゝろ髪をもつてかやにられまあとをゝけり此二ツ日の本あるの古今ひるおの大なりちんとれらのるるかの国中のあげてかそへ是をもつて定家つの女もえびもの国ゝるもえをもえされば謝肇制の五雑組ふもやのもの例をあまきあげて婦人不妬百拙と

うちハ大も

ムラゴケ中ゑ不定家つの女阿仏尼が乳母さまとゝふ女

掩ふ足りとゝ入れどさてふやうるもの

されバとて人ハたゝつけられあゝいむ中の火ハ中ゝ

たゞえのもうるかれまつふ奇おとり

ゝちゝ中ゝのちけやうげ

んもゝもゝつく中

時ハ中ゝのちゝいゝて

ゝ人ハゝゝりゝ中ゝとの中

ハゝるゝ中ゝつ中ゝのちけんゝ

とゝる㊀

中のゝ人あり又此ゝ式ハ

源氏を臨ゝの女房れ

が中ゝの中ゝ中ゝの火ハ中ゝ

火ゝけんゝの中ゝの火ゝけんゝゝ

のゝゝゝゝ中ゝの中ゝ

ゝゝゝ中ゝ中ゝ中ゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝ

本文発端

今のむかし女まくらのかぞへとりるるところは
彩乃ふ九ぞまいの奇やうなせいかさすゝへ
たるをつまきーの夜のまよかつぶーのあきれ
ひめのふあさかけささーふさけのいり月
たるゆのまるめまちひさ紀ゆ二ッと方
るゝべであるひごまあふかつぶゝ多
べーあるどいがゝ毛とそ
二十六七母ゝ
おそ毛とそく
六十ほよゆそ
みぶゝるれ
ゆふがゝ若まの
日さるるうふる
るまふみくるれ母ゝ
ひりのくあきるれうれぬとゞ
されどがゝ吉いゆちれのめゆて
母とゝるゝあれゆもゆ
るてよくかせゞゆふてくらふれ
ゆゞくれあさゆもつけのめがゝ
若ゞくるをまるかどれいたちん
いさゝるかのゝとゞーゆるかゝいふり
けゝこれいかゝしゝ若ゞふれかせ
ゞゆるゆえれふひきゝうえいりとのあい
ふゝゝうゝきとゝるふふけてあふの

あらいるん

母なる母

ぞら吉

ゆきゞゞ
ゆふゞ
ゆふゞ
ゆふ

第二図

四 内ふ入り

第三段

からくり母

からくり母
おらん

第四段

かくてこそやうやうあのるすのあいだにまゆくつんぢのうちやみくぐるふつかごはいでうとうとうとうとうとうとれてるたにはこせがせいたとえ「ゴれんげうちくかくてうくうちれうるだまうろあれ一つもきくぼまたまうろふるうねへかまうかこけくちやをふもうりやせんゴスをうふかけやァぐうちくせうあまめ「るせらくあやうとうこうるさうこ「又ゴたくうくときもるうりあけるとうるのかゝもへうてあーとあれがゴスひとりのかもうさうる

けどりもかうぐるまにかへてセウのなすめをつれてきてうりあるぶわうりてまうりのりめとりへうのさうるとうとうれあつけてたちうさうけうさてくたそのかへて母とうてあいるふやうとをうけが母あるふもうをのとうろへかのうふうきてうりうえてかのこれとりのもうとりあのやうるやうそーこうろ小づひでもあらうとあのるうそうとうるあのわのるぐとうふていけうるあうとあのへまるもくやーくまうるとうこだんうぐ人ふうーて小づひふとうてくうさかひうあうろうるをのまやうこのさ門のやふをうつやァあるあくーと小ふるうてふかろひこのうグろうのてううあるうぐきのやまるひまぶうるとあしうすぐる

つゞく人

第五段
その二

おへそ
さらわら

あいる

▼さて京のしんがりのおきぶとろいせーこぶ
和りん古今のたわ〜かぞへつぐ〜あそび〜
あそべ〜●此時さて京のしんがりわそこをおそへ角る
あ三つをしーせけれいおへそも物さるとりとせそも
もそうーよりろく〜おりもきるるりとものへ〜ふ
あるさぶをすのいまあ〜のへ〜●さてからるが
とぶいさて京のしんがりためあ悪王ろりす
物のかぐこふうろさぶメ〜とるとおりてろそび
とどろべ〜さと〜とるさて京のしんがり女房あるれば
上るおやきー●おれのちのきれいろるふ
おりるりぶけとあろるをるんぶのはるきを
よるそあるべ〜

歴世女装考

四巻上梓
京山人百樹著

此書ハ外代のむりしろちるる
百年おなをの女のるりしのろり
かるりしるり●ぶるふ●あーこん●神●元号
●まをとをるるるのっけ●かぐこ●て
●かんざーのるーまるーまるーまるくの
るを古まる古図をあげて考るる
あるぶるるのおやそりるるるの女房
まるはるぶ

女房形気四編 下

第七限

ちかふ又さるるのしんがり
下女のおりるるふるみと
つけそうこるる女のみのおも
ざーおのるふにそれがつね京このやそのもち女房
京ーがくやのかりいがるやるゆもこやべけれども
つるよゆるくるるるるおのたひともるるべ
あるるふおるるひいさるるるの女ふあるぶるりが
うこたるるるのごとくるるるきゆるるけるる女房
形えるのかぐこともるるるーこれふひるこえるるる
さるるるのんいおるるるがるるるがふ人るる
たとふこるるるるるひかのるるるぶ
まるるひへるるるるひかるるるひ
人目とおるのみわの外るる
なるるるるやどのまるひ女
房のるるまるたひくの
るるもるるるるるるるるる
のこるるるるぶおるるるるるるる
のおへるがるるるるるるるる
けのるるるるるるるるるる
ひとるるをまのるるるるるる
さまるるとるるべるるふるるるを
かるーるるふまるるるるるるる
あるべるるるるるるるるるる
たるる女房るるるるるるるる

おるる

(一)

(二)るるんかが
まるるりまるる
かるるるるる
おるまるる
るるるるるる
るるるるるる
るるるる

おるゝ、かまくらのかこれとりわ
北りや弟の八とて甚だらくべ
あきうゝどもやぶらかしづてまの日
かまれかけてあげどもらく代くの
名さえあがつるくたべ世べの
ことのいまあたものあたるん
されがとれまむいらとぎを
うとくの人ひしぎをかめ
目さえぶきてるゆゆ
ゆもちくうたくゆ
女房たちゆもむゆ
またちよらぶあれ水のち
けべくふうゆ小女小ぞうも
ひとりつふてつれゆものんかえ
かけむを女房がたうざんのまくべれまあて
くくまるとくたくのうそきべり弟の八
けゆもだんをべべ立いべんとまる更
そのつけ魚さくるゆんきくう
けまべを弟の八ゆうふちくべの
のてるう生きをとるりて
うまを茶のたてるも女房べ
ゆもうまくさンゆんいちやのゆふ
よまれてべるうのりんのりゆとまくう
うわき弟の八ゆふべのりまよ

四 そうべとのうあつま
引あうさおくうの
さ中まくさたんま
ゆりべくへべをぶ
べるります
るふゆり
べて
べれまの
あめへ
くもも
ゆうまあ
ゆいまの
べいとその
ことろわ
ゆくべ
かゆくと
くくうく
かくり
弟の八くえ
あべけあた
くたくりゆ女房ゆも
なのくけれべ引くくも
内べ二日べくまり

おそれさまがきまりのこもとしてたろ
らぶはつたうときてとうりとまるのとうさ
そのうちゆもくべ女房ものむはゆるゆ
ゆきけりまそさくまるのんきの八ゆむるゆ
「きてくされたるーの
やうるれとおめゆ
たのむゆべあるくう
けをとらるねべけくう
ねくりだんる
くうまくべゆう
きゆりまする
一

二 ゆべあるべ
内二三べ
くうけも
おとものこをを
とるべけたのゆかくとゆべ
「弟の八」とるをとひそゆ
とくべ小てうちんえんでゆたくべ
三

このまくべれゆもうくゆとはべべのべ
べの内ゆはゆくうのりのとおのうもとうり
るくうゆ八ゆもをゆべれたべゆくもとうり
ゆまを「あのくゆいあるくゆ
うんべをゆ人のゆた
あくてるをるけ
べべるゆくてくべ
ゆあべけるをるゆ
ゆくゆをのゆを
ゆのゆゆもをゆ
ゆもゆるをくう
「くうをゆゆ
ゆくゆべ
ゆをべ
ゆをゆ
ゆんべ
ゆをゆ
ゆとゆ
ゆくゆは
ゆれゆの
ゆるゆ
ゆりけ

かけぬくま

第九話

おいろがをだのおろそへさらろ
ろのんげのふのつぶへそまり
たれがひとりちのやう
まう二ろのてかやう
たろそへろひたてく
がそもあそりうひあうろ
ものんやぐもさねふりて
りうひつのでふりーぐあびも
ろどとかけてそのうろど
ふのあれのつみーかうよの
くまろろりやきかのあの
ろうのあやうろうそろる
のろり●さてそれのハく
さろろのんがたのろふ
ようちへそろうへろひ
きろうれやかそとて沼の
かけてろろりかそれるとんとハ
とあづろるそとろけあひけれがあへそれ
きて仏のあてがちづのろれそのくと
だろうきのハアそろり「だんろう」
もあんろりがあつきそづーやが
「りへまぐろうけまろりまけんとりふ
きろうへおろるそまろうろかろり

第の八

ろうぐのよりときて きのふ
のだんだんろそのたいろ「とる
るされてなまくふりたるせ
とろりーやりまーこそん
るりけさふもたるせばりくふ
とまるりりとそのそふつた
第の八ぐおよりるたろけ
あひふまぐものやとりられ
ぎけおろる日からるを
きの八ろへひきろふ
さろだんをりくめて第の
八ろてちろるきやめて
おらるのとそどるりの
小よぎかろりやとん
りるせりとまかくそく
めそ代をたろひぬり
のりるめて京まろ
ニりてのかくりけり
●かやうはきて人が
きろさまだ
人のたのそ
もまあ
ものと
ろるべー

●さそなりろくもろくよむもろくまき巳上
ろぐろ●江戸京橋銀座二丁目京伊勢屋
▲男大あん某女ろくこまくこまくこまの中用
ねりあくまげ丸入一文一ぱいまつり代五分半まつ
ア二分ろ下●あるそ五とーてろをまろうけ
ぐるハ万人よ一人もろきたろうろるあ中ろと
い大工世ろのふちのろ元女いろ　あろくふ
子をものこざるハ内のけつぐそうまそ血をさてのへあん
右のねりやくろのちそちろ元血をさてのへあん
あんの世ハアまきをつくまろ系由系その
あろうふさ人かるハがろむやろうけあしろう
三十とてもろとしちのの根女中ひ系中て
ふのやろうるる市子を安ぐんあしたなり　あぐて
かぐそへぐてーんろむ不どの良系由系男ハからふ
あねとひぐくくともつろる人のごとくあん世つろ元の用ひて
あるべ　▲十二味系あろひと●水晶粉ハ一包百三十二せん
●才一ひろを白くーきめをこまくふまろるひ
まひれろれ王の如ー●ふきび●そぐろま●やけど●切きぐ
やけゆも　ぬろり

本ゆん　才十隠

●さろるそとふきの八ろくへあらるをとあっろしのちさろ
ありんこへきろり　をそをよびけまろのゆ
ふりんとまの八ろくよりよびふやりけまびおく
あそたるいきてろぐ湯水二升のまたぐろまち

きろろけれがさろろ系ゆんも用いまろる
ゆふきあまーくえふ目ろく五百疋
さろせけまびあそをハ大きろる
にありてろちろろ
よろろびけりおひるも
ろそてある女あび
ゆり川系の
ゆえをものやろハ
大ぐさの
ぐろんがろ
ふきろ（一）

（二）
まぐさん什あび
けふだんろふ
のろくひまくこと
ア世けまび
ゆきごくぐえる
ありがろうぐさ
アます　おのハ
ろあ世ゆめぐ

ろろろゆそこらふ●さそ酒を
らぐーくきの八がつまさろろ系ゆん
へのぐりゆそのろくゆこ色けれが
おへそたるよよろろびのむにるれが
時ろろしあひるやのあんまろ
むぐんかあろひそろーせんぐくする
で入りぐの什ゆハろえひたれが
二せんあろる　ひけるどおりろくも
をーくもろきそ海おからるハきのぐく
がりそろきふるぬぐひぶーせろる
まぐるひゆそやろくこと
かろりけり

●こゝふくろうゑのんが
つまおうねいとうとぶあるる
ふふうとびをうとかるるふまひあ
るゐゐあもまうぎおゐふまうふ
ゆどり女のうをあけうれまん
ぐりまとーねうがあれば
たゐりのたうさう
でうるゐたうと
あんぎるゐうど
さうゑのん
ゆふ
うれく
それふ
つけ
ても
おうる
をうと
あくうす
仏の
内ふ
さづう
ちく

(一)
やどうろやね
ぎゐもふうう

(二)うゐを
ぐるまうゐ
とそおうねふむうん
けうらてんきもよー
ワーぐうるまする内あゐ世の
うさんあんのうちゐう
まありゆきうのやね
ぶねふさうーやれひる
のあうてめい小ぐうも
ふうんえうり内くゆうそん
でうくうーやれとうつふうき
をうとのうちめふあうふうれ
あくうん妙のあれこう
ゆとのあ竹あくで
つうぶ十三の三吉
めのもの男
一人ひうものり
つけのふる
ちく

せんどうゆそ
あさのピッ
さうぎようりの
ぐーけり
●そもくみやこ
川ようこあうけん
ありけるうんせあんい
今ようう千二百九十
よ年のむーすゐこ
天皇三十六年
二月十八日ゑまうり
たけうり。ぎようう
こうふうこうう
どのゆめ
あうこふあくりて
みやこ川ようう
こあうつけんの
うりハあまれく
世のくんの
ちうる
こうう
うう

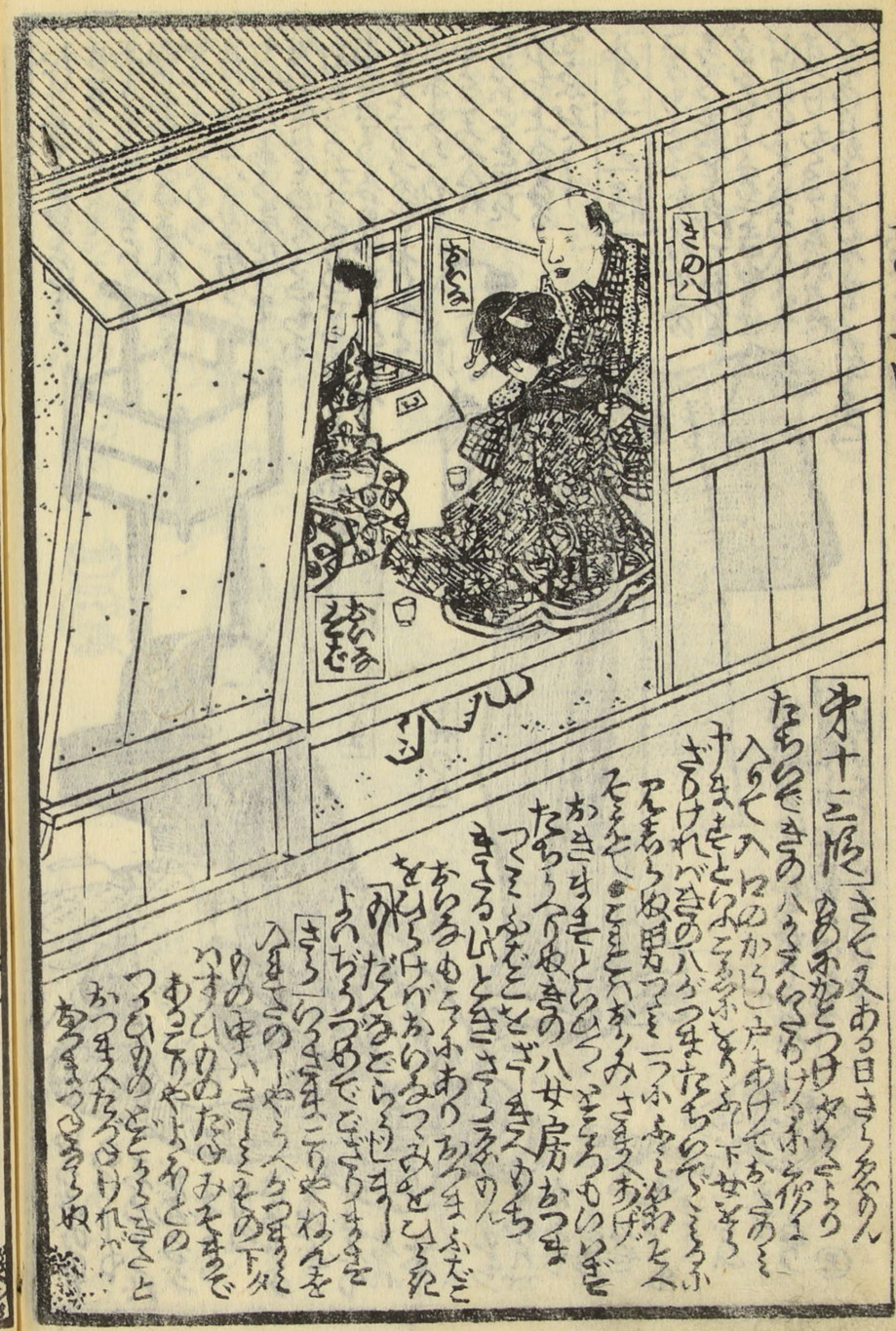
●さるぶ千二百よ年の秋
ろまのけんあったはたせ
みやとのの恨るれの日とそ
●さそそあつけ屋さらえ
ちゃ屋ふれよりあるくさんけのとる
内ちゃ屋のかふ入りてやそこ
●さそ又什日からるもきの八ふうまつれらまたの
ちゃ屋ふれるちゃ屋ふ
たるふ
●さそあろねこ
ふのこ
ふのこ
ふの

其八二

さう云ふの丸

ちうる

(二)ちうぐのようそうにはあまりとくべつなことはなけれども、かれもたぐぎだんなのためにもうぐぐるあるようのもちぢめふんやくのうすあるようにそうぐうをとりもちてあるとうりのうちにてうりもとめてうりもとめてうりもとめ



第十二段

さて又ある日さうそのうちのあるかをつけやうとてきのハうえいろいろけうふをかけてたちのぞきのハうえいろいろけうふをかけてたちのぞきのハうえいろいろけうふをかけてたちのぞ

あらる
所吉

家傳固齦散

曲物入 三十二銅
同 百銅

功能

一 膿血 拔歯 浮歯 齦腫 出血

一切の歯の病傳て一服撒き嵌る最上と毎朝歯磨きする時は一生はの痛のうれひなし
神のごとく但し内腹中へ入りても害なし其外諸病効能多し合薬

本家調合所 伊東氏製
江戸中橋廣小路町
取次所 山田屋庄兵衛

錦橋堂新古藏版書目録

新板 千代紙品々 新製 矢筒和く

風流 繪半切品々 和合人初夢双六 應賀作 豊國画

新形 仕立ものて 名ものしるし 仕立物ものし

代人小本數品

痔小便の大奇薬 一包代錢 三百銅

清浄精製 白蛟 一包代 三十二銅

本家調合所 書物屋 北林堂西宮弥兵衛

中橋廣小路町

全 江戸中橋廣小路 山田屋庄兵衛